

日々の天気図

— No. 159

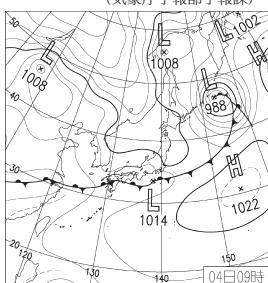
2015年4月

西・東日本太平洋側は上旬～中旬に曇りや雨の日が多く、月間日照時間がかなり少なかった。下旬は晴れた日が多く西～北日本は旬間日照時間がかなり多いことがあった。

全国的に気温高く釣路の月平均気温5.5°Cは4月極値の高溫。

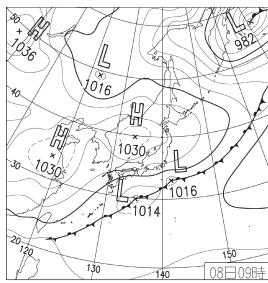
清水、米子で月降水量4月最多。

(気象庁予報部子報課)



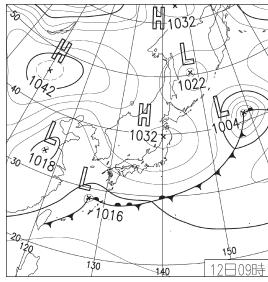
4日(土)本州南岸に前線停滞

西日本～東日本は曇りや雨となり和歌山県栗柄川で52mm/1h、沖縄・奄美と北日本は高気圧に覆われ晴れ。長野市でサクラ開花、戸市など4都市でサクラ満開。台風第5号発生。



5日(日)今年初の真夏日

低気圧が東に進み九州～東北は雨となり北海道も夜には雨。宮崎県日向30.1°C、沖縄県伊是名30.0°Cと全国として今年初の真夏日。台風第4号と第5号は熱帯低気圧に。



6日(月)本州南岸に前線停滞

全国的に雨や曇りだが、太平洋側では晴れ間も。最高気温は、日本海側では平年より低いが太平洋側では5～6°C高い所も。銚子市と福島市でサクラ満開。



7日(火)寒気の流れ込み強まる

気圧の谷と寒気の影響で全国的に曇りや雨となり北海道では雪。

最高気温は日本海側では5～6°C高い所も。銚子市と福島市でサクラ満開。



8日(水)関東などで雪

寒気の流れ込み続き、西日本～東日本では曇りや雨となり、関東甲信・北陸では気温低く雪やみぞれ。銚子市では最も遅い降雪の記録(大正14年4月6日)を90年ぶりに更新。



9日(木)寒気の影響強く残る

沖縄・奄美～九州付近に雨雲広がる。

全国的に気温の低い状況続き、最高気温は太平洋側で平年よりかなり低く、関東甲信では各地で10°C以上低い。

盛岡市でサクラ開花。長野市でサクラ満開。

10日(金)沖縄～東北まで雨

低気圧が本州南岸を東進。西日本から雨となり夜は東北も雨。

気温は上がりず九州～関東で最高気温が平年より6°C以上低い所多い。

山形市でサクラ開花。長野市でサクラ満開。

11日(土)気温上昇し平年並に

高気圧に覆われ西から晴れ間広がる。

最高気温は西日本中心に最低気温は東～北日本中心に前日よりかなり高くなり、一部を除いて最高気温は

は平年並に戻る。秋田市でサクラ開花。

12日(日)西から雨雲広がる

前線の影響で終日雨となった沖縄を除き高気圧に覆われて広く晴れたが、西日本は次第に雲が広がり夜はほぼ全域で雨。

沖縄県久米島で34mm/1hの激しい雨。

13日(月)高知県で猛烈な雨

低気圧が本州南岸を東進。高知県清水で114.0mm/1hの猛烈な雨が降り327mm/日の大雨。

最高気温は西～東日本で低く東京で11.3°Cなど関東甲信では2月並となった所も。

14日(火)引き続き雨

沖縄・奄美と北海道は高気圧に覆われ概ね晴れたが、西日本から東北は低気圧の影響で雨。

西日本では大気の状態が不安定となり、鹿児島、長崎でひょう。

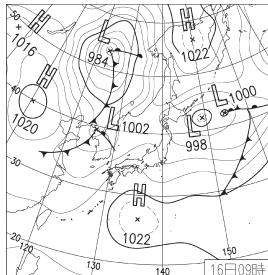
青森市でサクラ開花。

15日(水)各地で雷雨やひょう

強い寒気が上空を東に進み、九州～東北にかけ大気の状態が不安定となり各地で雷雨。

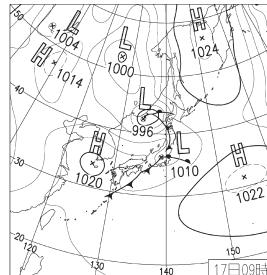
福岡、岐阜、前橋でひょう。

秋田市と山形市でサクラ満開。



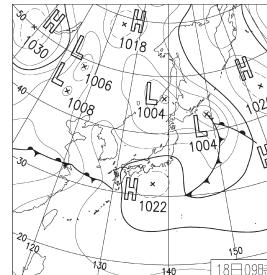
16日(木)午後は西日本で雨

北日本を除いて晴れて気温が上がり、最高気温が5~6月並の所も。午後は西日本から雨が降り始め、和歌山県潮岬で38.5 mm/1hの激しい雨。盛岡市でサクラ満開。



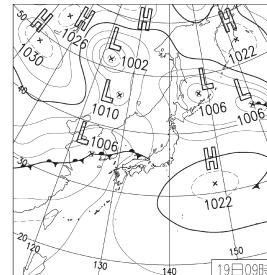
17日(金)西日本等で黄砂

前線通過に伴い広範囲で雨。関東は日中気温が上昇して大気の状態が不安定となり、各地で局地的な雨や雷。山形県飛島で最大瞬間風速30.6 m/s、福岡・高松等、西日本や北陸で黄砂。



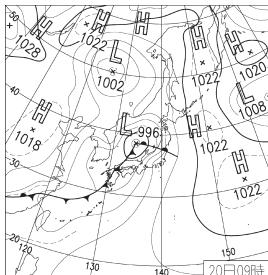
18日(土)東の間の晴れ

西~東日本は高気圧に覆われ晴れて早朝は冷え込み日中は気温上昇。九州付近に前線がのが出しひ夜は九州付近に雨雲広がる。中国、北陸の他熊谷、仙台でも黄砂。



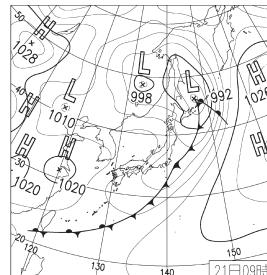
19日(日)沖縄で猛烈な雨

沖縄から東日本は暖かく湿った気流や前線の影響で雨。沖縄県では所野で130.5 mm/1h、与那国島で101.5 mm/1hの猛烈な雨。東北は概ね晴れ。青森市でサクラ満開。



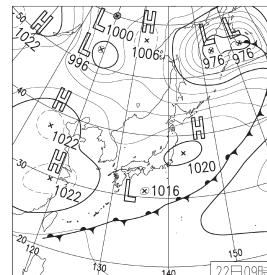
20日(月)奄美で1時間76 mm

低気圧と前線の影響で暖かい湿った空気が入り沖縄・奄美や西~東日本の所々で激しい雨。鹿児島県伊仙で76 mm/1hは4月の1位。沖縄県与那国島で震度4、秋田市でツバメ初見。



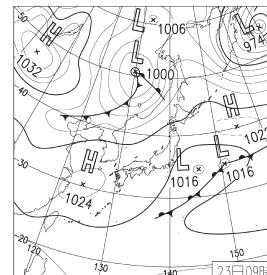
21日(火)北海道でサクラ開花

朝の最低気温は東海~東北太平洋側を中心に平年より高く東京では平年より6.9°C高い17.4°Cで6月上旬並。北海道は気温が上昇し最高気温は7月並の地点も、札幌市でサクラ開花。史上2位タイの早さ。青森市でツバメ初見。



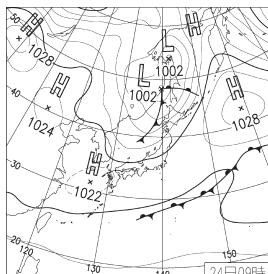
22日(水)札幌市でサクラ開花

高気圧に覆われて広く晴れたが、午後は東日本の太平洋側で曇りや雨。北海道は気温が上昇し最高気温は7月並の地点も、札幌市でサクラ開花。史上2位タイの早さ。



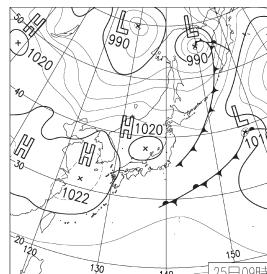
23日(木)全国的に晴れ

高気圧に覆われて全国的に晴れて最高気温は平年より高い。沖縄県石垣島、与那国島、京都、名古屋、甲府、熊谷、前橋などで夏日。札幌・仙台では20°C以上となり6月上旬並。



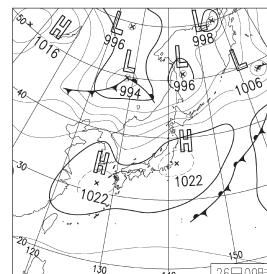
24日(金)晴天続く

高気圧に覆われて広く晴れ。沖縄・奄美は湿った気流により所々で雨。北日本では寒冷前線に伴う雨雲が通過。全国的に気温が高く東北でも夏日。函館市でサクラ満開。



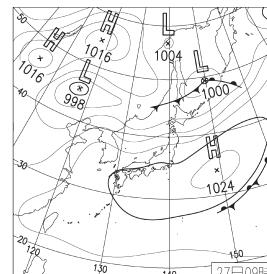
25日(土)ネバールでMw7.9の地震

高気圧に覆われ九州~北海道は概ね晴れ。沖縄は湿った気流の影響、関東は午後所々で上空寒気の影響があり曇りや雨。ネバールでMw7.9の地震。福井・金沢・山形で黄砂。



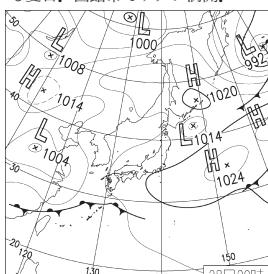
26日(日)帯広市でサクラ開花

帯状の高気圧に覆われて全国的に晴れて気温上昇。北海道では最高気温が各地で20°C以上となり7月中~下旬並の所も、帯広市でエゾヤマザクラ開花。札幌市でサクラ満開。



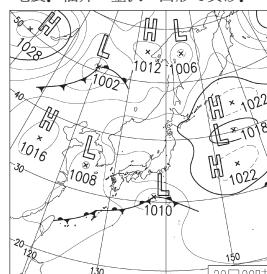
27日(月)本州・北海道で真夏日

暖かい南風の流入に日射も加わり気温上昇。全国の6割、563地点で夏日。沖縄・九州以外では今年初となる本州11地点と北海道8地点で真夏日。37地点で最高気温が4月の1位。



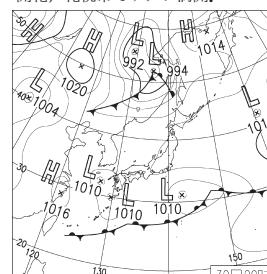
28日(火)関東など連日の真夏日

東~北日本は晴れて気温上昇し27地点で最高気温が4月の1位。前線近傍の沖縄県川平で90 mm/1hの猛烈な雨。室蘭市でサクラ開花。帯広市、旭川市でエゾヤマザクラ満開。



29日(水)秋田県中心に真夏日

低気圧などの影響で沖縄・奄美と西日本の太平洋側は雨の降った所が多い。大気の状態が不安定となり、長崎県福江で53 mm/1hの雨。東北では32地点で4月の最高気温の1位。



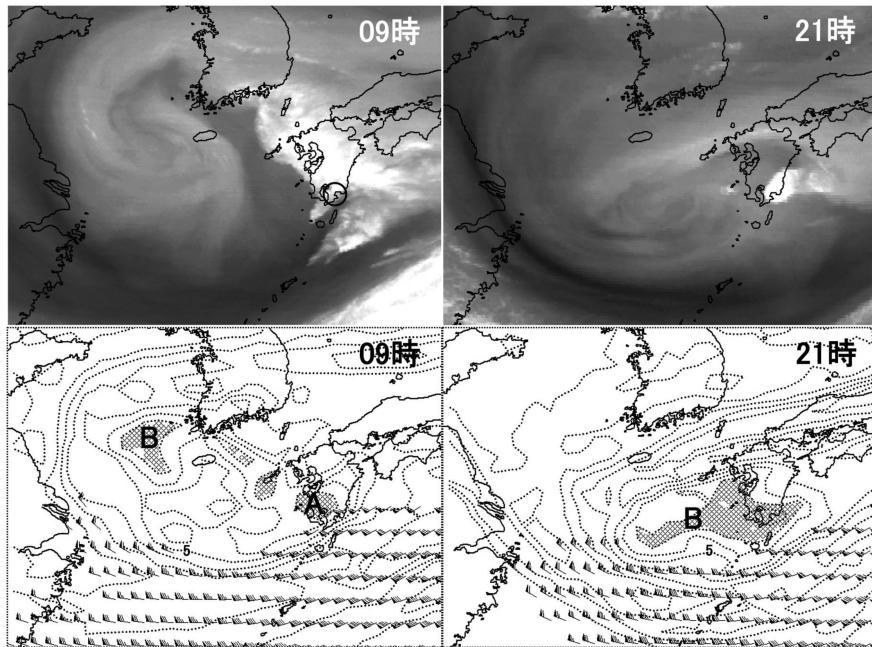
30日(木)九州南部で大雨

低気圧の影響で九州は雨。鹿児島県内之浦で128.5 mm/1hの猛烈な雨。北日本は晴れて青森県三戸で最高気温30°Cなど各地で4月1位。網走市でエゾヤマザクラ開花早く歴代3位。



今月のひまわり画像—2015年4月

大隅半島に記録的な大雨をもたらした寒冷渦



第1図 2015年4月30日09時、21時（日本時間）の東シナ海付近における水蒸気画像（左上図の○印の中心は肝付町内之浦）とMSMによる335 K等温位面における渦位（1 PVU毎に表示、ハッチ域は7 PVU以上、記号A、Bについては本文参照）及び風（60 kt以上を表示（1 kt=0.51 m/s））の分布図。

2015年4月29日～5月1日、スケールの大きい寒冷渦が黄海から南下し、東シナ海からトカラ列島を通過して本州の南海上に進んだ。鹿児島県の大隅半島付近では記録的な大雨となり、肝付町内之浦では5月1日08時10分までの24時間降水量が551.5 mmとなるなど、通年の極値が更新された。このため、同町付近では浸水害、土砂災害が発生し、36世帯が孤立した。また、同県内では、長時間、発雷が顕著であった。

第1図は30日09時、21時（日本時間）の水蒸気画像と気象庁メソ数値予報モデル（MSM）による335 K等温位面における渦位及び風の分布図である。この2つの時刻前後に内之浦においては降水のピークが見られ、後者では1時間降水量128.5 mmが観測された。寒冷渦は400 hPa付近の高度で最も循環が明瞭で、同高度では-28°Cの寒気を伴っていた（図略）。また、同日、中心付近では圏界面の高度は次第に下がり、21時には300 hPa面より低くなっていた。

今回の大雨における総観場の特徴としては、下層における南北走向の収束域の顕在化（図略）などの他に、中上層における寒気トラフの通過があげられる。成層圏起源の高渦位域は水蒸気画像では明瞭な暗域として認識されるが、今回は主に2つの高渦位域（以下、A、B）が存在していた（第1図）。足早に九州南部を通過して30日21時には紀伊半島付近に進んだAの前面付近では、09時過ぎに下層擾乱（気圧約3 hPa変動、風速20 kt以上を伴う）が種子島・屋久島地方から大隅半島付近に進んでいたことを地上天気図から確認できる。また、鹿児島の高層観測データなどによると、このAの通過後、同県の中上層は乾燥化し、中下層の風は約30 kt以下と弱かった。その後、Bの接近に伴い400 hPa付近以上の高度で気温が低下していた。このような環境場の推移が21時前の内之浦付近における対流雲の再発達・停滞につながったと推察される。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）